

平成29年度 自己評価表

52 宇和島南中等教育学校

教育方針	「輝く瞳の君であれ」 一人一人の自己実現を目指して	重点目標	夢・挑戦・感動 ー夢を持ち、挑戦し、そして感動する生徒の育成ー
------	------------------------------	------	---------------------------------

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
学 校 運 営	中高一貫教育の推進	校長が、目指す教育理念や運営方針を職員、保護者や地域に明確に説明し、周知を図る。 ○小学生体験入学参加者数 <u>200人以上</u>	C	・学校説明会、授業見学会、体験入学会、ホームページの活用によって教育理念や学校運営方針を周知することができた。 ○小学生体験入学参加者数 107人	・学校説明会の実施方法について検討し、中等教育学校の良さをアピールする。
		1・2年、3・4年、5・6年各ステージの効果的な運営について研究する。 ○前期職員会議の実施 <u>年3回</u> ○教育課程委員会の実施 <u>年3回</u>	B	○各ステージの教育内容、指導方法及びその連携の在り方についての研究がなされた。	・前期職員会議での各教科間の情報交換の場を更に設ける。
	学校経営に対する理解と評価	保護者と連携し、魅力ある学校づくりを目指して行事の工夫・改善を行う。 ○保護者の交流行事 <u>年5回以上</u>	B	・6月の給食試食会と同窓会記念講演会を同日に実施し、保護者へ参加を呼びかけた。 ・PTA研修旅行を文化祭の後に実施し、親睦を深めた。 ○保護者の交流行事 <u>年8回</u> (総会、クイズ大会、給食試食会、同窓会記念講演会、親睦会、体育祭、文化祭、研修旅行)	・保護者が参加しやすい行事にするための工夫を更に検討していく。
	組織の連携強化	○学年会の実施 <u>月1回</u> ○教科会の実施 <u>月1回</u>	A	○各学年、教科での情報交換が円滑に行われ、有機的に機能した。	・各校務分掌内における情報交換会を設ける。
	危機管理の充実・強化	非常災害や事件・事故などに対処できるよう役割分担を明確にし、準備・訓練等を充実させる。 抜き打ちの初期避難訓練を実施する。 地域の防災活動との連携を図る。 ○実践的な防災避難訓練等の実施年2回 そのうち一斉の避難場所への避難訓練1回実施	A	○防災避難訓練等を3回計画したが、うち1回は、文京地区5校1園合同の地震津波等対策避難訓練であったが、天候不順で延期された。 ・起震車、煙充満体験、避難器具訓練、消火訓練等、実際の場面に沿った訓練を実施することができた。 ・県の緊急避難訓練(シェイクアウト愛媛)も引き続き実施できた。	・今年度、延期となった文京地区5校1園合同の訓練を実施したい。 ・気候を考え、1、2学期各1回の2回実施を計画したい。
	教育環境の整備	あいさつや清掃活動が活発に行われるように指導するとともに、校内巡視を徹底する。 ○清掃活動巡視 <u>毎日</u> ○校内巡視 <u>毎日</u>	B	・あいさつについては不十分であったが、整備委員が掃除チェックシートを活用して校内美化に努めた。 ・整備委員が清掃時間に毎日、活動巡視を実施した。	・あいさつ、清掃活動などの基本的な生活習慣を教職員の共通理解のもと、啓発するとともに、生徒自身の自発的活動につなげていく。
		校内各所の危険箇所の改修を速やかに行い、生徒が安全で快適な学校生活を送れるよう環境整備に努める。	B	・施設設備の老朽化が進んでいるなか、迅速に修繕・改修を行い安全で快適な環境整備に努めた。	・修繕必要箇所を早期発見し、修繕・改修に努める。
職場環境の整備	悩みを気軽に相談しあえる職場環境・人間関係づくりに努める。 教職員レクリエーションを開催し、心身の健康と人間関係の構築に努める。 行事や会議の縮減・簡素化を行うとともに、全教職員一人一人が、仕事の進め方に対する意識を改革し、超過勤務の削減に努める。 ○教職員レクリエーション大会 各学期に1回	B	・職場巡視を行い、職場環境の整備を行った。 ・「健康相談室だより」の配布やメンタルヘルス関係事業・福利厚生制度が積極的に活用されるよう情報提供を行った。 ・学期に1回教職員相談を行った。 ・会議資料を事前に配布し、内容の確認をして会議に参加することで、スムーズに進行することができた。 ・教職員レクリエーションの在り方について検討した。	・メンタルヘルス関連事業・福利厚生制度を積極的に活用するよう、より一層啓発活動を行う。 ・教職員の健康管理への関心を高めるように努める。 ・校務分掌の横のつながりを強めて、協力体制を構築することで仕事の効率化を図り、働き方改革を進める。	

評価の段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
学校運営	学校運営に対する理解と評価	授業公開日や様々な「通信」及びホームページ等を通じて、保護者や地域に学校の状況を適切に伝える。 ○授業(行事)公開日 年間9回 ○授業公開日の参観保護者数 全保護者の50%以上 ○ホームページの更新 行事ごと	B	○行事公開日6回+授業公開日3回 年間9回実施 ○4月参観保護者数 60.6% 5月参観保護者数 43.5% 2月少年の日13.8% (2年生保護者数 50.6%) 授業公開39.3%(3回分の平均) ○ホームページの更新 1、2学期は行事ごと、3学期は各週ごとに担当を決めて毎日更新した。	・「南校通信」で、保護者や生徒に対する情報発信を行うとともに、内容の充実に努める。 ・4月と5月にそれぞれ実施していた授業公開を、5月の1回(PTA総会と同日)とする。 ・年度当初から毎日ホームページ更新をして、情報発信ができるよう体制作りをする。
		生徒・保護者及び地域の願いや職員の意見を反映させ、共通理解のもとに組織的な運営を図る。	C	・授業公開時のアンケートや学校行事、PTA活動の中で、保護者からの声を諸行事に反映させ、学校改善に努めた。	・今後もアンケートを実施し、生徒・保護者及び同窓会の意見を吸い上げ、学校行事やPTA活動、120周年行事に生かすよう努める。
学習指導	教科指導の充実	出席する、継続することの大切さを理解させる。 ○1か年皆勤率 60%以上 ○3か年皆勤率 35%以上	C	○1か年皆勤率 58.3% ○3か年皆勤率 26.6%(前期)、35.3%(後期)	・登校し、授業に出席することの大切さを生徒に引き続き理解させる。 ・生徒に対して、体調管理に努めようとする意識の醸成を図る。
		分かる授業を展開し、基礎・基本を定着させ、学力の向上に努める。	B	・各教科において教材の精選・工夫や、共通の指導目標のもと学力向上に向けての努力が見られた。	・小テストや課題の充実により、基礎・基本の定着、応用力の更なる伸長を目指す。 ・アクティブラーニングを授業に取り入れ、生徒の表現力や思考力を育成できるよう努める。
	家庭学習の充実	適切な課題を与えるとともに、漢字検定・英語検定などの資格取得を通じて、目標に向かって自主的に学習する姿勢を育成する。 ○家庭学習時間 1・2年生 120分以上 3・4年生 160分以上 5・6年生 200分以上	D	・残念ながら目標に届いていない。特に、2年生と4年生の学習時間の少なさが心配である。 ○家庭学習時間 1・2年生 108分 3・4年生 104分 5・6年生 167分	・後期生は秋の学習時間の集計結果を受けて、学年会を開いた。各教科での課題の量や内容の見直し、教科間の課題のバランスの調整、さらに日頃から各クラスで実施している学習時間調査の内容を踏まえた面接による指導をしていくことが出されたので、今年度中から実施することとしている。
生徒指導	生活指導の充実	指導方針を明確にし、全教職員が指導にあたる組織づくりに努める。	B	・指導方針に基づき、全教職員が連携した指導ができています。	・教職員間の情報交換をスムーズにしていく体制を整える。(年度初めの職員会で周知する。)
		規範意識の定着を図り、綿密な情報交換に基づいて生徒理解に努める。 ○入学してよかったと思う生徒100% ○社会の規範をよく守る生徒100%	C	・綿密な情報交換に基づき、細やかな指導(早期発見、早期指導)ができた。 ○問題行動件数 前期5件 後期0件 (昨年度 前期1件 後期2件)	・即時指導を心掛け、規範意識を高める。また、学級、クラス、部活動内での人間関係の構築に努める。

評価の段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
生徒指導	生活指導の充実	家庭・地域及び関係機関等、外部と連携して指導する。	B	・状況に応じた速やかな対応ができた。	・丁寧な対応を心掛け、保護者との意思疎通を図る。 ・学校だけで対応できないことについては、専門の機関等を紹介し、相談してもらおう。
		保護者懇談会や家庭訪問等を実施し、保護者の相談に適切に応じる。	B	・保護者の相談に応じているが、不十分な場面もあった。	
	生徒会活動の充実	生徒会各種委員会の活動を通して自主・自律的精神を養い、宇和島南中等教育学校の生徒としての自覚や連帯感を育てる。	B	・生徒は自主的に活動し、学校行事も活発に行うことができた。	・生徒会、各種委員会の活性化を図る。
	部活動の充実	達成感が得られるように部活動の活性化及び大会成績向上につながる指導方法の工夫を図る。 ○県総体出場者 [前期] 70人以上 [後期] 170人以上 ○全国大会出場 体育・文化部含め4部以上	B	・部活動の意義を理解し、おおむね目標を達成することができた。 ○県総体出場者 (前期) 78人 (昨年44人) (後期) 144人 (昨年159人) ○全国大会出場 後期水泳、日本文化 (かるた、囲碁) 前期邦楽	・部活動を6年間継続する意義を活動を通して体感させる。 ・効果的に実践できる練習環境を考える。 ・全国大会の出場数を継続する。
進路指導	進学・就職指導の充実	進学・就職に関する研究を深め、生徒の希望と実態に即した適切な指導を行う。	C	・学校に送られる多くの情報を、伝えることはできた。入試の多様化で出願時期が早まっており、6年生の夏以降決定が遅れる事があった。	・進路部と各担任との連絡を密にする。
		生徒理解のために、学力推移調査や模擬試験などの成績資料を整備し、その活用を図る。 ○大学入試センター試験受験率 80%以上 ○国公立大学合格者 70人以上 ○難関国公立大学と医学部医学科合格者 13人以上 ○難関私立大学の合格者 30人以上	B	○大学入試センター受験率 82.3% (昨年79.1%) ○国公立大学合格者 55人 ○難関国立大学と医学部医学科合格者 4人 ○難関私立大学合格者 40人	・模試の個人成績記録用紙の活用を改善していく。 ・講演会や面談の内容を工夫し、進路に対する意識を早めに高めさせる。 ・SGHでの取組の整理を意識させる。 ・安易に科目を絞らせないような指導を行う。
		興味や適性に応じて進路選択ができるよう、適切な情報を提供し、生徒や保護者対象の適切なガイダンスを行う。 ○保護者対象進路説明会 年間3回以上 ○生徒対象進路説明会 各学年2回以上	B	○全校生徒保護者対象5月 ○6年生6月、4・5年生10月 保護者対象進路説明会実施 ○4年生7月 生徒対象進路講演会実施 ○5年生3月 生徒対象進路講演会実施	・講演については打ち合わせをさらに綿密にし、適切な内容の講演となるよう努める。講演の回数や時期については、効果を考えながら変更する。
		面接、懇談会等を実施し、生徒・保護者・学校の連携や意識統一を図る。 ○面接回数 5回以上 ○保護者懇談会 2回以上	B	・面接・懇談会は各学年の指導方針に則して計画的に実施し、成果を上げた。	・面接資料の充実を図る。前期生については、成績などを整理するファイルの使用も検討する。
特別支援教育	特別支援教育の充実	生徒の困難さに目を向け、ニーズに合わせた指導や支援ができるように、特別支援教育の体制整備に努める。	C	・合理的配慮等の研修により、努力してもできないとか指示がうまく理解できないという生徒の困難さを受け入れることができるようになってきた。しかし、体制の整備については検討中である。	・生徒のニーズに応じた支援を困難な部分を補うのではなく、将来に向けての目標と捉え、本人、保護者、教員が相談しながら共通理解を図る。 ・教育支援員の採用をお願いする。

評価の段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
人権・同和教育	人権意識の高揚	差別や偏見のない社会を目指す生き方について共に学ぶ。 ○「人権だより」の発行 月1回	B	・毎月発行した「人権だより」で、学びを深めることができた。生徒や保護者の声も発信することができた。	・人権委員会やPTAの活動をさらに活性化して、人権問題について学びを深めていきたい。
		いじめ・体罰・セクシュアルハラスメント等に対する意識を高め、気軽に相談できる体制をつくる。 校内研修会を実施して、全教職員が共通の意識をもっていじめ防止・発見対応に努める。 ○いじめ等対策委員会の実施 年2回	C	・アンケートを実施して、実態を把握し、学年と協力していじめ問題が深刻にならないうちに早期に対応することができた。	・いじめ問題が根絶されたわけではないので、引き続き生徒がアンケートに記入したり相談しやすい体制を作り、適切に対応していきたい。
		道徳・学級活動・ホームルーム活動を活用し、生徒の成長に応じた系統的・段階的な指導を行う。	B	・ホームルーム活動・学級活動をしっかり実施できた。	・人権教育部と学年の連携を密にして、さらに工夫をして実施していきたい。
現職教育	教職員の資質向上	学校の現状改善や将来に目を向けた適切なテーマで研修を行い、職員の資質向上を図る。 ○南校ティーチャーズウィーク（相互授業参観）を実施 年2回以上	B	・職員校内研修会を7回実施した。 ・7教科でそれぞれ研究授業を行い、授業改善や指導力向上に努めた。 ・南校ティーチャーズウィークを年2回（6月・11月）実施した。	・教員相互の授業参観の都合がつくように研究授業の実施時期を配慮する。
健康・安全指導	心身の健康増進	健康観察、健康相談の充実を図り、健康増進に努める。 定期健康診断の事後措置を徹底し、疾病の受診率向上を目指す。（う歯、視力等） ○「保健だより」の発行・ホームページへの掲載 月1回	B	・保護者懇談会等を利用し、保護者に直接受診勧告書を配布し、繰り返し受診勧告を行った。 未処置歯のある生徒 前期8.8%→5.2%(受診率40.5%) 後期12.9%→11.0%(14.8%) 視力B以下の生徒 前期38.1%→17.8%(受診率53.3%) 後期28.3%→11.0%(21.1%) ○「保健だより」を月1回発行し、ホームページにも掲載し啓発を図った。	・前期生については、受診率が向上している。後期生については、個別指導や部活動顧問等にも働きかけ、早目の受診を呼びかけ、受診率の向上を図る。 ・「保健だより」も内容を充実させ、タイムリーな情報提供をする。
		各行事、教科等を通じて、食育について周知・啓発を図るとともに、家庭との連携・協力を努める。 「水産の日」「地産地消の日」を設け、地場産業の啓発に努める。 ○食育の日 水産の日 地産地消の日 月1回	B	・「食育だより」を12回発行し、家庭へ食育についての啓発を行った。 ・保護者対象の給食試食会を実施。（6月） ○食育の日、水産の日、地産地消の日を予定通り実施。	・学校単位から部活動単位まで生徒保護者のニーズに応じて、食の大切さの啓発を図る。
		相談員等と教職員との連携を図り、生徒の変化に速やかに対応できる体制の強化に努める。	B	・十分とは言えないが、努力した。	・保健室、相談室、学年団、関係機関の連携を図る。 ・「子どもたちにとってより良い支援を考える会」を継続して行う。
	安全指導・点検の強化	交通ルールの遵守に努め、交通事故を防ぐ。特に、自転車による登下校時のマナーアップ向上に努める。	C	・委員会活動、講習会、交通指導等から交通マナーアップを呼び掛けたが、一部の前期生には効果が薄かった。	・自転車での登下校を中心に委員会活動や講習会はもちろんのこと交通指導、巡視等を利用し改善する。（特に前期生）
		校内巡視を徹底し、危険箇所等のチェックを行い、迅速な対応を図る。	B	・安全点検を実施し、危険箇所の把握に努め、速やかに修理を行った。	・校内巡視を積極的に行い、危険箇所を早期発見し、速やかに対応する。

評価の段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
図書・視聴覚・情報教育	読書指導の充実	全校で朝読書を行うなど生徒が本に親しみを感じ、読書習慣を身に付けられるように指導する。 ○書籍年間貸出冊数 一人年間6冊以上 ○読書冊数 一人年間15冊以上	B	・年間を通じて朝読書を実施することができた。昨年度から後期の読書冊数が増え、やや改善がみられた。 ○書籍年間貸出冊数 1人 7.3冊 (前期9.0冊 後期5.6冊) (昨年度末 1人6.3冊 前期8.1冊 後期4.5冊) ○読書冊数 1人18.2冊 (前期22.1冊 後期14.6冊)	・学級やホームルーム活動でもビブリオバトルを取り入れてもらうよう働きかける。 ・引き続き貸出カードに目標冊数に達したらシールを貼ったり、ホームルームノートに読書した書名を記録させたりするなど、読書冊数が増えるような工夫をするよう努める。
		生徒にとって必要な図書を選定し、利用しやすい図書館運営や環境づくりに努める。	B	・図書委員会が中心となって、全校集会でビブリオバトルを紹介し、その後、校内読書会でも開催し、多くの生徒たちが興味、関心をもって参加した。 ・一部ではあるが、ホームルームや学級活動でも読書活動の啓発を行うことができた。 ・生徒作成の本の紹介や読書感想画を展示するなどよりよい図書館環境の維持に努めた。また、話題の新刊図書を選定したり、授業でも図書館利用してもらったりするなど生徒が利用しやすい図書館運営に努めることができた。	・できるだけ開館日を設け、開館時間を確保できるように工夫する。 ・引き続き生徒たちが来やすく利用しやすい図書館になるよう、展示や活動を企画し環境作りに努める。
	情報処理教育及び情報管理	視聴覚機器を整備し、効率的な活用ができるようにする。	B	・利用簿を電子化することにより、プロジェクタ等、視聴覚機器をより円滑に活用することができた。	・情報機器の効果的な利用法についてさらに研究を深め、周知を図る。
		コンピュータ活用能力を高めるとともに、適切な利用について指導する。 ○校内研修会における自主的な教職員の参加率 30%	B	・学校ホームページのブログを多くの先生方に書いていただけるようになり、ホームページの内容が充実してきた。 ホームページのブログ作成の研修や職員会議後の研修等、ほとんどの先生方に参加していただき、目標を達成することができた。	・コンピュータ利用の校内研修の充実に努め、全教職員のスキル向上につなげる。
		情報セキュリティー意識の高揚に努め、管理体制を明確にして個人情報等の管理を厳密に行う。	B	・4年生が1年生に対して情報モラルの授業を行い、セキュリティーや個人情報の保護について学ぶことができた。	・学校全体に情報セキュリティー意識の向上を呼びかけができるよう努める。
	学校評価	学校改善の取り組み	組織的・継続的な改善を進める。 信頼される開かれた学校づくりを進める。 教職員個々が目標を掲げて自己評価を行うことを通して、自己研鑽に励むとともに、学校への帰属意識を高める。 明るく意欲的に仕事ができる職場環境を整える。 講演会や校外研修の実施で、学校生活における充実感や意識向上に努める。	B	・教育活動全般において、教職員一人ひとりの役割と教職員間の連携・協体制度を明確にし、活動の円滑な実施と課題の解決を図った。 ・文書及び学校HP等によって保護者等へ速やかな情報提供を行うとともに、保護者等からの相談や連絡への適切な対応に努めた。 ・目標管理制度を活用して、教職員一人ひとりが、学校教育目標を踏まえた自己目標の設定と、達成への自己研鑽及び自己評価を行った。 ・外部講師(大学、行政、研究機関及び企業)による充実した講演・課題研究を実施することができた。前期3年生への講演も2回実施することができた。

評価の段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)